

## 会 議 録

|                    |   |
|--------------------|---|
| 会 議 名              | 山陽小野田市図書館協議会  |
| 開 催 日 時            | 令和6年2月15日（木）午後2時から午後3時30分まで   |
| 開 催 場 所            | 山陽小野田市立中央図書館2階 第1会議室  |
| 出 席 者              | 山陽小野田市図書館協議会委員 8名<br>香川真澄委員、細井徹委員、東原秀一委員、吹上静恵委員、若山さやか委員、伊藤久美子委員、梅津弘美委員、中村明美委員<br>事務局 7名<br>藤山教育部長、矢野社会教育課長<br>山本図書館長、増富中央副館長、木本厚狭副館長、銭谷主査、荒井主任  |
| 欠 席 者              | なし  |
| 配 布 資 料            | 次第、議事資料等  |
| 担 当 課              | 教育委員会 社会教育課 中央・厚狭図書館  |
| 会 議 内 容<br>及 び 結 果 | <p>1 開会</p> <p>2 教育部長あいさつ</p> <p>3 委員、事務局職員自己紹介</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 令和5年度事業報告について</p> <p>事務局から令和5年度事業の実施状況、図書館の利用状況等について資料に沿って説明した。</p> <p>以下、委員からの主な質問及び回答。</p> <p>委員：電子図書館年代別貸出統計で6～12歳が大幅に増えた理由は？</p> <p>事務局：市内小中学校の児童生徒全員にIDとパスワードを配布したことが考えられる。</p> <p>委員：厚狭毛利家文書の過去の資料はデータベース化するのか？</p> <p>事務局：データベース化については何が最善なのか研究していきたい。</p> <p>委員：予算要求して書籍としても残してほしい。</p> <p>事務局：紙ベースとしても必要だと認識している。</p> <p>古文書を読める人が少なくなっているのが課題である。</p> <p>委員：赤崎・高千帆分館の活動実態は？</p> <p>事務局：貸出や簡単な相談のみでイベントは開催していない。</p> <p>委員：分館の存在感がある企画や活動ができればよいと思う。</p> <p>事務局：分館がある市は珍しい。地域の方がよく使われていて、リクエストのあった本を他の図書館から取り寄せて分館に配送している。</p> <p>委員：電子図書館の利用方法が分かれば積極的に借りることができるのでは？</p> <p>事務局：電子図書館のPR活動は図書館から出向いて行いたい。</p> <p>小中学生向けに電子書籍の特集を組んで時々リニューアルしているが、PR方法を検討したい。</p> |

委員：学校図書館の地域開放については？

事務局：予算の制約のある中、学校司書を確保できている。学校と協力しながら進めていきたい。

委員：電子書籍の予算が減少しているのはなぜか？

事務局：導入1、2年目にコンテンツを揃え3年目で落ち着いてきた。これから少しずつ購入していく。

委員：1回購入したらずっと読むことができるのか？

事務局：ずっと読めるものと2年または52回貸出で消えるものがある。

(2) 令和6年度重点目標（案）、活動方針（案）について

事務局から資料に沿って説明した。

以下、委員からの主な質問及び回答。

委員：今まで受けたレファレンスを国立国会図書館のレファレンス協同データベースに掲載する予定はないか？

事務局：考えていない。現在、司書のスキルアップのため毎朝演習問題を出しており、3年で400問を超えた。

委員：良い試みであり、研修をすることでスキルアップにつながる。

(3) その他

図書館の活動全般について、委員からの主な質問及び回答。

委員：カーリルはあるか？

事務局：県内では光市が導入している。

5 その他

事務局から今後の行事を紹介。

6 閉会

以上